

学園報
第25号

はたらき人

沖繩聖書学園 (沖繩信徒聖書学校・沖繩信徒伝道者学校・沖繩聖書神学校)

沖繩信徒聖書学校校長：新垣栄市

沖繩信徒伝道者学校校長：城倉 翼

沖繩聖書神学校校長：喜友名朝英

学園事務局 (平良善郎 090-3418-5747)

聖書を正しく 読むために

「如何に聖書を解釈するか」
平良善郎(解釈学概論教師)

沖繩聖書学園は、聖書六六巻を正しく読み、真理の御言葉の奥義、その豊かさを学んでいる。如何に御言葉を正しく解釈するか、その問いに対して、正統主義的神学に固く立ち、聖書は「神の言葉である」という確信のもと、歩み続けている学び舎である。

教会史の歴史の変遷は、聖書解釈の重要性をはっきりと物語っており、それゆえ、正しく聖書を読み、解釈することが教会形成の重要なポイントであると理解する。信徒聖

書学校・信徒伝道者学校では、正統主義的聖書解釈に立つ教師を通して、また、沖繩聖書神学校では「聖書解釈学概論」という学びを通して聖書を正しく読み、解釈することの重要性を学んでいる。その学びは、様々な「人々を誤りに導こうとする悪賢い人間の、風のように変わりやすい教えに、もてあそばれたり、引き回されたりすることなく」(エフェソ四章一四節)、ゆるぎない信仰に歩む者へと導くのである。

その聖書解釈の歴史を学び、その足跡を辿ることにより、教会に押し寄せる様々な教えの波に対処する備えが導かれる。たとえば、もし、教会が異端的な教えに迷わされるならば、キリストの体なる教会が互いに裁き合い、愛が冷め、分裂という、悲しい現実も起こり得るのである。し

かし、聖書解釈学という学びを通して、その様々な教えに対して適切に対応する備えができる。そして、教会の愛の交わりを守ることができるのである。

聖書に「御言葉が開かれると光が射し出で/無知な者にも理解を与えます。」(詩編一九編一三〇節)と記されている。つまり、聖書を正しく学び、正しく解釈する歩みは、私たちの心に光が射す歩みである。日々の信仰生活の中で何が真理で、どのように歩むべきかを悟るのである。また、神の愛の奥深さを悟る者へと導かれ、全知全能なる神が十字架で命を献げるほどに、私たちを愛され、赦されているという確信が増すのである。今、この社会情勢の中で、共に聖書を学ぼうではないか。



主の協力者となるろう

沖繩聖書学園理事長
渡真利彦文
(胡屋バプテスト教会)

学園報「はたらき人」が久しぶりに発刊となりました。

沖繩聖書学園は、沖繩信徒聖書学校、沖繩信徒伝道者学校、沖繩聖書神学校の三校からなります。その始まりは一九七四年、沖繩信徒聖書学校が、沖繩クリスチャンスクールにおいて一五人の入学を迎えた時に遡ります。その後沖繩聖書神学校が一人の新生で一九七八年開校し、学園報「はたらき人」第一号が発行されました(一九九六年、学園報二四号で休止)。一九九三年、信徒伝道者養成コース開校。二〇〇一年に現在の三校合同の

沖繩聖書学園が設立されました。学園の設立時に、信徒伝道者養成コースが二年制の信徒伝道者学校と変わり、またカリキュラムを見直しました。さらに二〇〇八年には北部分校開設と続きました。

これまで校舎として沖繩クリスチャンスクール、福音会館、沖繩祈禱院、那覇バプテスト教会をお借りして学びが進められてきました。神学校は各教師の教会をクラスとして用い今日まで続いています。二〇一五年一月二五日には沖繩聖書学園四〇周年記念式典及び感謝会が那覇

バプテスト教会で執り行われました。私たちの学園は、ユニークな存在です。校舎がなく、生徒よりも教師が多い、不思議な学園です。しかし、主のみ言葉に基づき、主の弟子づくりに焦点を絞り、「熟練した働き人をめざして」歩んでいます。沖繩聖書学園も歴史を刻み、二〇二四年には創立五〇周年を迎えます。学園は「かき集めるのではなく、かけ集まる」群れをめざします。現在、協力教会五六、賛助団体三、後援会の祈りと協力を得て、「神の国実現のための人材育成」を掲げ、主の働き人、弟子づくりに主が再び来られるときまで主のみ言葉に従う学園となります。

クリスチャン人口 (世界の人口・日本の人口) ・日本の宗教観の現状

世界のクリスチャン(2017年)約 24 億 4 千万人(トリック約 12 億 4 千万人、プロテスタント 5 億 5 千万人、その他)

日本のクリスチャン(2017年)約 105 万人(トリック約 44 万人、プロテスタント約 60 万人、その他 1 万人)

世界 68 カ国を対象にギャラップの調査によると、世界人口の 7 割以上が神を信じていることが分かった。一方、日本は人口の 29%が神を信じておらず、中国に次いで無神論者が多い国となった。中国では人口の 67%が神を信じておらず、宗教的であると自認する人は 9%にすぎなかった。世界全体では人口の 62%が宗教的だと答え、74%は人が魂を持っていると信じている。また 71%が神を信じており、56%が天国、54%が死後の世界、49%が地獄の存在を信じている。

(christiantoday2018.6.1 参照)

沖縄聖書学園 在学生紹介

二年生

- 小田島由美 (首里福音教会)
- 下地良子 (那覇バプテスト教会)
- 中島布美子 (那覇バプテスト教会)
- 長嶺栄子 (泡瀬バプテスト教会)
- 安元史枝 (那覇バプテスト教会)

二年生

- 小渡里子 (首里福音教会)
- 上原太 (沖縄グロリーチャーヤベル)
- 玉城めぐみ (那覇ナザレン教会)
- 岸本裕樹 (那覇バプテスト教会)

聖書神学校

二年生

- 伊是名浩 (基督恩寵教会)
- 城間恵 (沖縄愛の教会)

四年生

- 又吉勇 (泡瀬バプテスト教会)
- 安慶名冴子 (胡屋バプテスト教会)

二〇二一年度

— 学生募集 —

- ★信徒聖書学校
 - ・修学年限二年
 - ・募集人員二〇名
 - ・願書締切り三月末日
 - ・詳細は入学案内を参照
- ★信徒伝道者学校
 - ・修学年限二年
 - ・募集人員二〇名
 - ・願書締切り三月末日
 - ・詳細は入学案内を参照
- ★沖縄聖書神学校
 - ・修学年限四年
 - ・学生募集に記載されている入学資格を参照
 - ・願書締切り一月末日
- ★神学校聖書科
 - ・学生募集参照
 - ・願書締切り二月末日



- 信徒聖書学校 一年生
 - 新垣美郷 (金武バプテスト教会)
 - 石垣マリヤ (前原バプテスト教会)
 - 石高青恵 (教団・那覇相愛伝道所)
 - 伊波彩香 (泡瀬バプテスト教会)
 - 崎原孝哉 (那覇ナザレン教会)
 - 辺士名美恵子 (石川福音教会)
 - 山口八重子 (教団・宜野湾伝道所)

信徒聖書学校で

学んで



2020年3月卒業

金城可南子姉 (那覇バプテスト教会)

私は自分の甘い信仰の姿勢を変えたい思いで、聖書学校の入学を決意しました。しかし仕事との両立は大変で、入学を後悔した事もありました。ある先生に「命の御言葉を、なぜ命がけで求めないのか」と私の学びの姿勢の甘さを指摘され、生ぬるい信仰生活を見透かした言葉が心に刺さり、自身を省みる機会となりました。現在も、自身の甘えの部分と戦い、主の喜ばれ

る道を選択できるような努力している日々です。こんな私にも、先生方は真摯に向き合い感動をもって御言葉を解き明かして下さいました。続ける大変さに勝る学びの喜びが非常に大きかったです。

この学校を通して、3つの恵みを実感しました。

① 試練が成長となる事です。「患難が忍耐を、忍耐が品性を、品性が希望を生み出す」(ロマ)。御言葉を蓄える事で、日常の中で問題に遭遇しても、その先に主が与えようとしている計画を期待するようになりました。試練の中でも、主が訓練していると受け取る事で平安が与えられます。

② 次にキリストを追い求め続ける事の喜びです。「前にある競走を、忍耐をもって走り続けよ



う」(ヘブ)。学べば学ぶほど、新しい奥義に触れ感動と喜びが与えられました。これは終わりのなき祝福であると同時に、人生の指針であると強く感じます。同じ御言葉からでも、語られる

③ 最後に、集まる事の素晴らしさです。一人では続けられなかった聖書の学びを喜んで行う事ができたのは、同期の存在でした。「互いに励まし合い徳を高め合う」(テサ)。分かち合いを通して、別の視点での御言葉の解釈や恵みを知ることは、何倍もの祝福でした。また、多くの励ましと助けを頂き、共に学び・祈り合った同期との出会いを主に感謝します。

卒業は終わりではなく始まりであると受け止め、ここでの学びを糧に私の人生を主に委ねていく者になりたいです。

